



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 59

PROFILE

ニューヨーク生まれ。専門は近世・近代日本文学。東京大学大学院で教壇に立つ一方、テレビで司会者やコメンテーターなども務める。その他、新聞雑誌連載、書評、ラジオ番組出演など、さまざまなメディアで活躍中。2007年から現職。

私が日本と出会ったのは大学1年生の時です。カリフォルニア大学で履修した日本美術史の授業に感銘を受け、日本人の教授にどうすればより深く学べるか相談に行きました。すると、「美術作品の裏にある文化的背景を理解するためにも、まずは言葉を」と勧められ、日本語を勉強するようになりました。

私が感じる日本の魅力の一つは、森や里山の美しさです。日本の森は木々の多様性に満ちています。故郷のニューヨークに比べ、東京は緑が豊かです。

そんな美しい自然環境を持つ日本で、2011年、「東日本大震災」が発生しました。宮城県の鳴子温泉地区に住む友人から、「以前は、漁期が終われば温泉で保養し、地元の生活を楽しんでいた住民が震災以降、避難所の部屋にこもりがちになった」と聞き、「何かしたい」と思うようになりました。そこで始めたのが、「読書倶楽部」の活動です。これは本を読んだり、読書を通して感じたことを仲間と共有したりすることを目的とする活動で、私も地域を回りながら短編小説の

ゆるやかにつながる国、日本

日本文学研究者・東京大学大学院教授 **ロバート キャンベル**

Robert Campbell



朗読やディスカッションなどを行いました。住民の方々は、感情移入できる本に触れ、回を重ねながら仲間と気持ちを共有する中で、次第に打ち解けていきました。この活動が実現したのは、本を提供してくれた東京の出版社や広報を後押ししてくれたデザイン会社、また、活動場所を提供してくれた宮城県の地元の方々など、多くの人々の協力のおかげです。

これがきっかけとなり、2012年からは細川護熙元首相(写真右)が理事長を務める「公益財団法人 瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」の活動に取り組んでいます。このプロジェクトは、東日本大震災で発生した木質の瓦礫を青森県から福島県の沿岸約300キロメートルに埋めて土を盛り、そこに地元で採取したドングリから育てた苗木を植えて防潮林を作ろうというものです。毎年、秋にボランティアを募ってドングリの採集を行うのですが、私はこのイベントをとっても楽しみにしています。今では、ドングリの種類にも詳しくなりました。

これまでの3年間で、延べ2万6,000人

の人々の手により、総計22万本の苗木が植樹されました。全国から集まるボランティアのほとんどがリピーターです。彼らは、イベントやソーシャルネットワークを通じてゆるやかにコミュニティを形成し、各々が情報を拡散しながらプロジェクトを盛り上げてくれています。そして、それぞれが「プロジェクトを見届ける」、そんな気持ちで参加してくれているようです。

「公」を尊重しながら、「個」がそれぞれの役割を全うする——。そんな、ゆるやかな連携のあり方は、江戸時代の文学や美術世界の交流にも見られたものです。このような日本の強みをこれからも継承し、ぜひさまざまな場面で生かして行ってほしいと思います。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「なんとかしなきゃ」で